

令和6年度

スマートフォン等の利用に関する 実態調査の結果について

1 調査の目的

児童生徒のスマートフォン等の所持や利用の状況、トラブル等の実態などを把握することで、児童生徒への指導や保護者への啓発等、今後の取組に資する。

2 調査の実施時期

令和6年11月～令和6年12月

3 調査の概要

- ・小学校5年生と中学校2年生の全ての児童生徒を対象

(対象者数)	小学校5年生	807人
	中学校2年生	883人
	合計	1,690人

- ・市内の小学校27校、中学校8校全ての小中学校で実施

4 備考

本報告書において、

- ・スマホ等とは、スマホ(スマートフォン)またはケータイ(従来型の携帯電話)のことを表す。
- ・小学校とは、小学校5年生、中学校とは、中学2年生を指す。

令和7年5月

津山市教育委員会
学校教育課

(1) スマホ等の利用状況について

〈 概 要 〉

①スマホ等の所持率

- ・自分の使うスマホ等を持っている割合は、小学校61.5%、中学校89.0%であり、増加を続けている。
小学校の上昇率が高く、所持率は60%を越えている。
- ・持ちっかけ(複数回答可)は、小中学校ともに、前回調査と同様に「家族との連絡のため」が最多であった。(小64.2%、中73.4%)

②長時間利用の割合

- ・平日1日に平均2時間以上使用している割合は、小学校42.1%、中学校70.0%となり、前回調査より増えている。

③スマホ等を利用する時

- ・スマホ等をよく利用する時(複数回答可)は、小中学校ともに「自宅で家族といるとき」(小70.2%、中63.1%)、「自宅で一人有的时候」(小66.5%、中88.6%)が多い。
- ・中学校では、「登校前」の利用が33.6%、「深夜(23時以降)」の利用が29.3%である。

④家にいるときに何に利用しているか

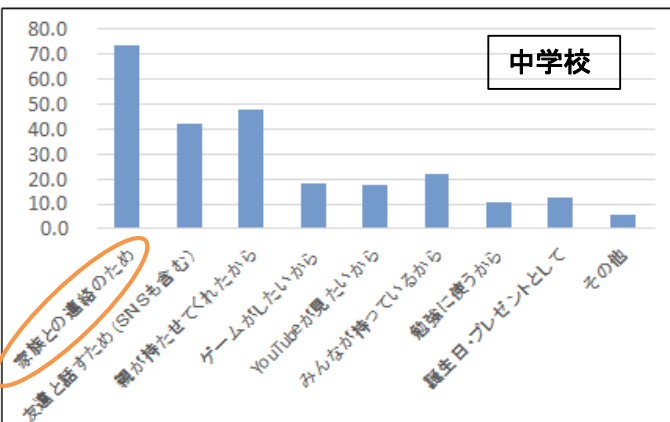
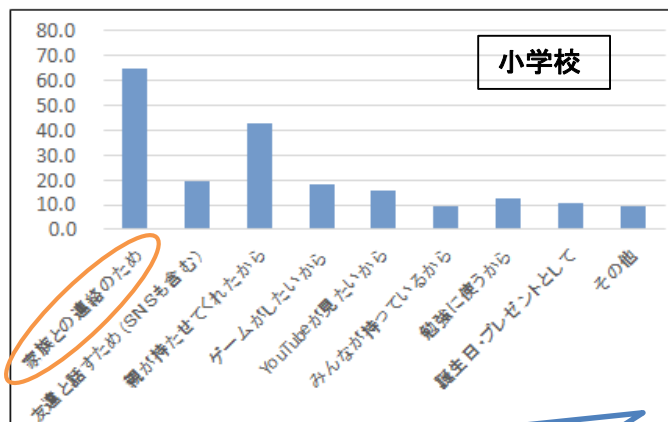
- ・小中学校ともに、「ゲーム」、「音楽や動画の視聴等」が多く、中学校では「SNSの閲覧」も多い。
- ・「友達との会話(SNSを含める)」に利用している割合は、小学校42.2%、中学校70.6%である。
- ・小中学校ともに、勉強で使うと答えた割合は、25%程度である。

① スマホ等の所持率(%)

	小学校	中学校
R6	<u>61. 5</u>	<u>89. 0</u>
R5	56. 6	88. 2
R4	56. 1	83. 6

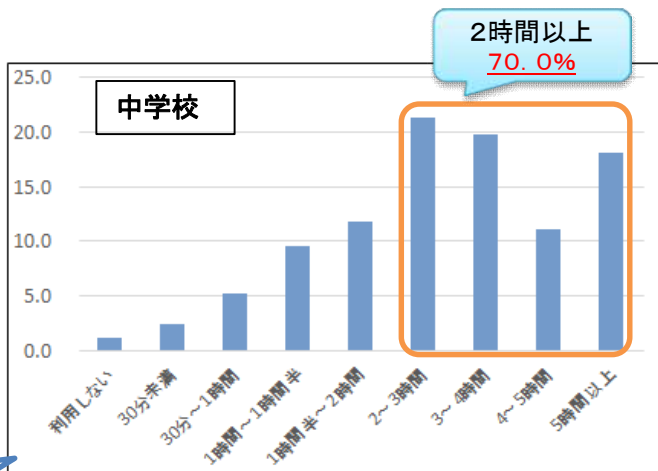
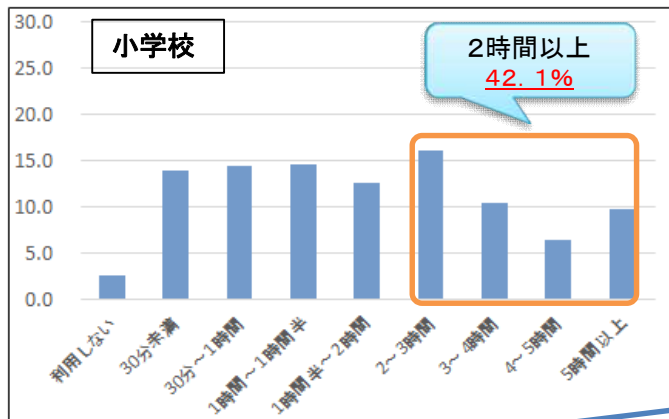
小中学校ともに上昇を続けている。特に小学校は上昇率が高く、所持率が60%を越えている。

・持ちっかけは？(%)【複数回答】



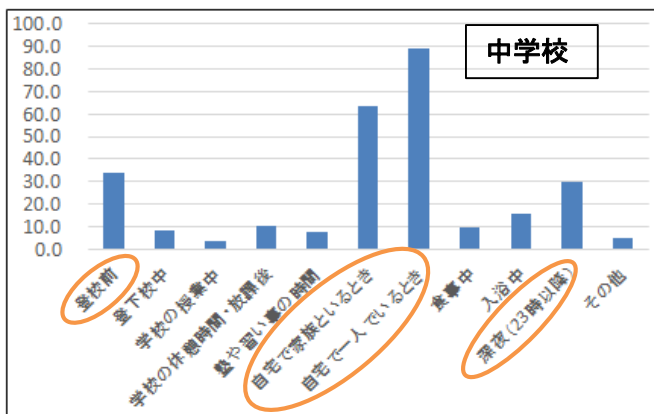
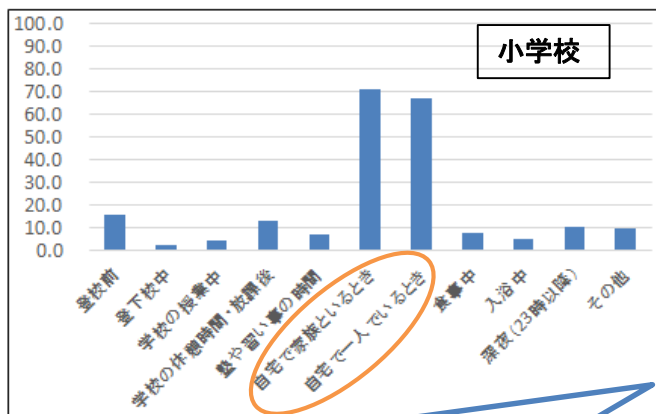
きっかけは「家族との連絡」が最多。その後の利用の実態は異なる。

② 平日1日のスマホ等の利用時間別割合(%)



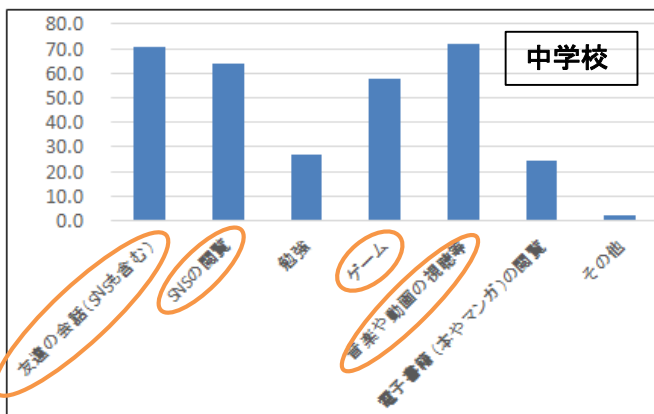
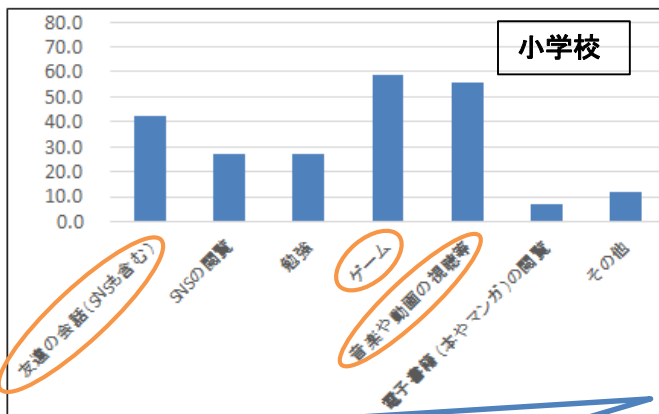
参考 (R5)2時間以上 小学校:35.0% 中学校:66.8%

③ スマホ等をよく利用するとき(%)【複数回答】



- ・小中学校ともに、家族との時間、個人の時間等家での利用が多い。
- ・中学校では、登校前や深夜の利用が30%程度ある。

④ 家にいるときにスマホ等を何に利用しているか？(%)【複数回答】



- ・持つきっかけは「親との連絡」が多いが、利用の実態は「友達の会話」「ゲーム」「音楽や動画の視聴」が多く、中学校では、「SNSの閲覧」も多い。
- ・勉強で使うと答えた割合は、小中学校とも25%程度いる。

(2) スマホ等の利用による影響について

〈 概 要 〉

①スマホ、ネット、ゲーム機等の利用のために減った時間が「ある」

- ・スマホ、ネット、ゲーム機等の利用のために「減った時間がある」と回答した割合は、小学校31.8%、中学校37.1%であった。

②減った時間の具体

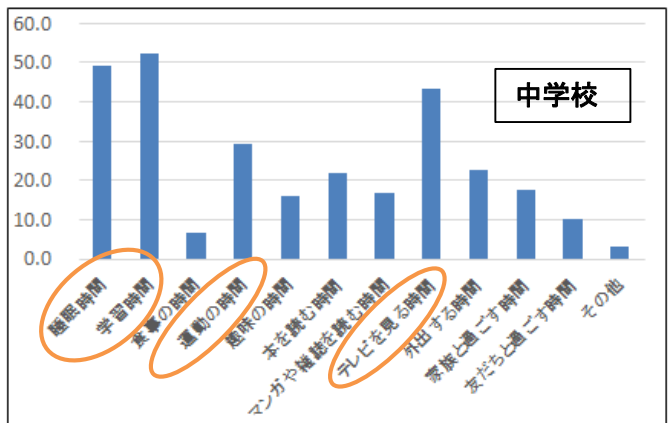
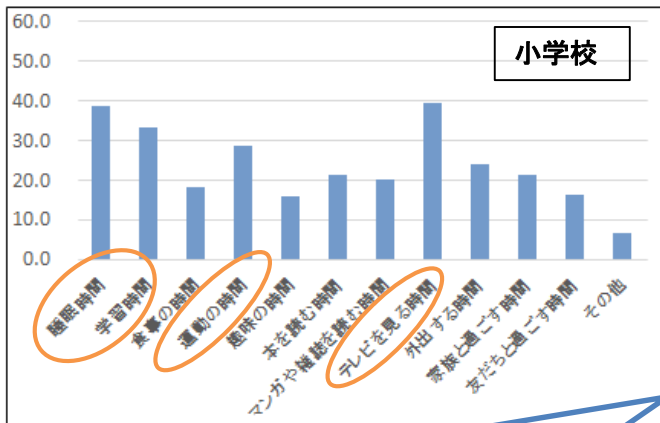
- ・①の「減った時間」の具体として、小中学校ともに「睡眠時間」「学習時間」「テレビを見る時間」の割合が高く、特に中学校では、「睡眠時間」「学習時間」に大きな影響を及ぼしている。
- ・スマホ等の利用のために「テレビを見る時間が減った」と回答した割合が高いことから、児童生徒が触れるメディアの中心がテレビからスマホになりつつあることが推測される。
- ・「運動時間が減った」と回答した割合は、小学校28.3%、中学校29.1%で、スマホ等の利用により体を動かす機会が減少していると推測される。

① スマホ、ネット、ゲーム機等の利用のために減った時間が「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R6	<u>31.8</u>	<u>37.1</u>
R5	30.6	37.8
R4	31.9	35.4

小学校では、増加し、中学校では減少している。

② スマホ、ネット、ゲーム機等を利用した為に減った時間は？(%)【複数回答】



- ・「睡眠時間」が減ったと感じている割合は、小学校は約40%、中学校は約50%である。
- ・中学校の約50%が、スマホ等の利用により「学習時間」が減ったと回答している。
- ・小中学校の約30%が「運動の時間」が減ったと回答している。

(3) スマホやネット等を介したいじめやトラブルについて

〈 概 要 〉

①インターネットやコミュニケーションサービスを利用することで悩みや負担があるか

・インターネットやコミュニケーションサービスを利用することで悩みや負担が「ある」と回答した割合は、小学校10.6%、中学生14.1%で、小学校において前回調査から大きく増加した。

②具体的な悩みや負担

・①の具体的な悩みや負担として、小中学校ともに「コミュニケーションサービス内の人間関係」「自分の悪口が書かれていないか」「自分の書き込みを後で悩む」が多く、人間関係ややりとりに負担を感じていることがわかる。

③インターネットやコミュニケーションサービスで嫌な経験をしたことがあるか

・インターネットやコミュニケーションサービスで嫌な経験が「ある」と回答した割合は、小学校9.8%、中学校12.2%であり、小中学校ともに増加傾向である。

④具体的な嫌な経験

・③の具体的な嫌な経験として、「書き込んだ内容が誤解された」と回答した児童生徒の割合が高く、小学校では、前回調査で最も割合が高かった「ゲームの中でトラブルになった」から変化が見られた。

⑤相談相手

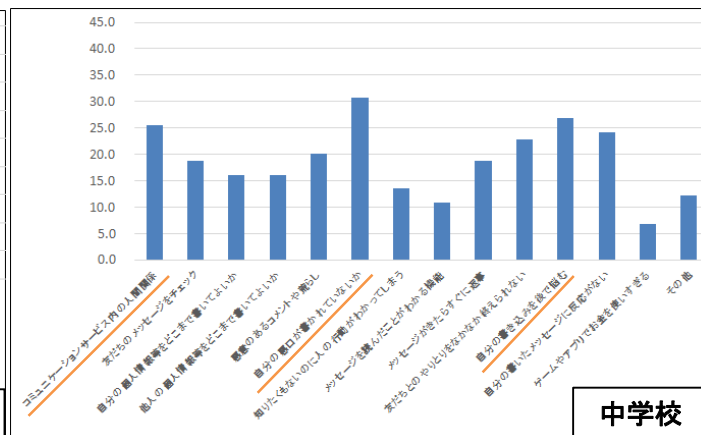
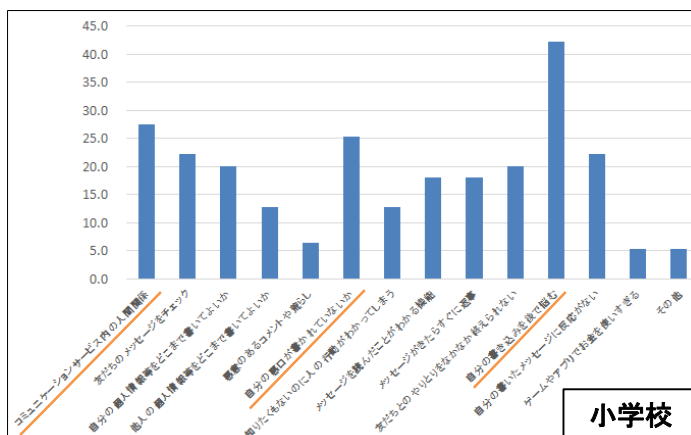
・嫌なことがあっても「相談していない」と回答した割合は、小学校43.5%、中学校35.4%である。
・相談相手を小学校では「家族」49.3%、中学校では「友達」56.1%と回答しており、校種によって相談相手に相違が見られる。

① インターネットやコミュニケーションサービスを利用することで悩みや負担が「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R6	<u>10.6</u>	<u>14.1</u>
R5	7.6	14.1
R4	7.9	13.3

中学校では変化がないが、
小学校は増加に転じている。

② インターネットやコミュニケーションサービスを利用することでの具体的な悩みや負担(%)【複数回答】

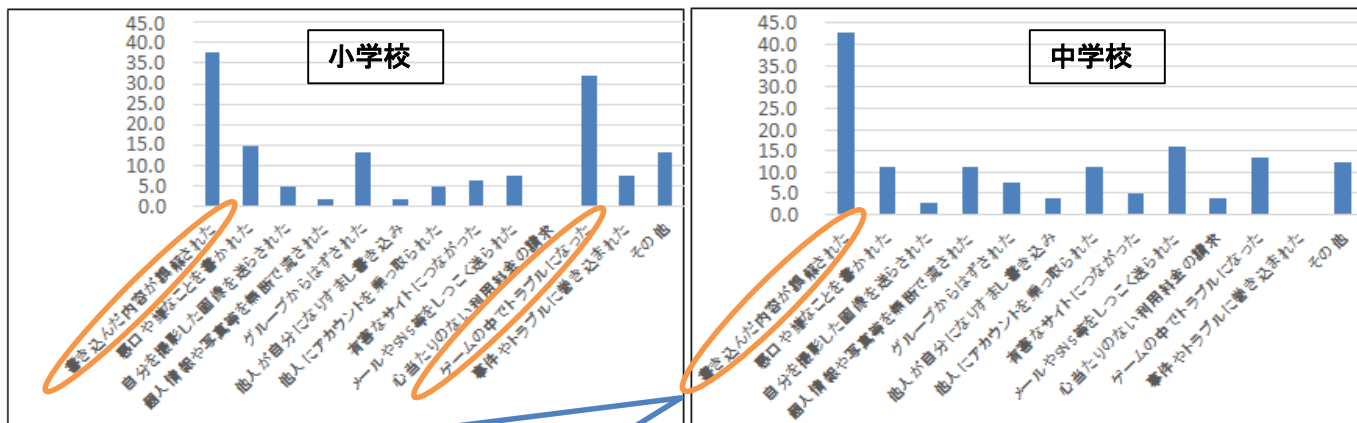


③ インターネットやコミュニケーションサービスで嫌な経験が「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R6	9.8	12.2
R5	7.2	11.9
R4	7.4	11.1

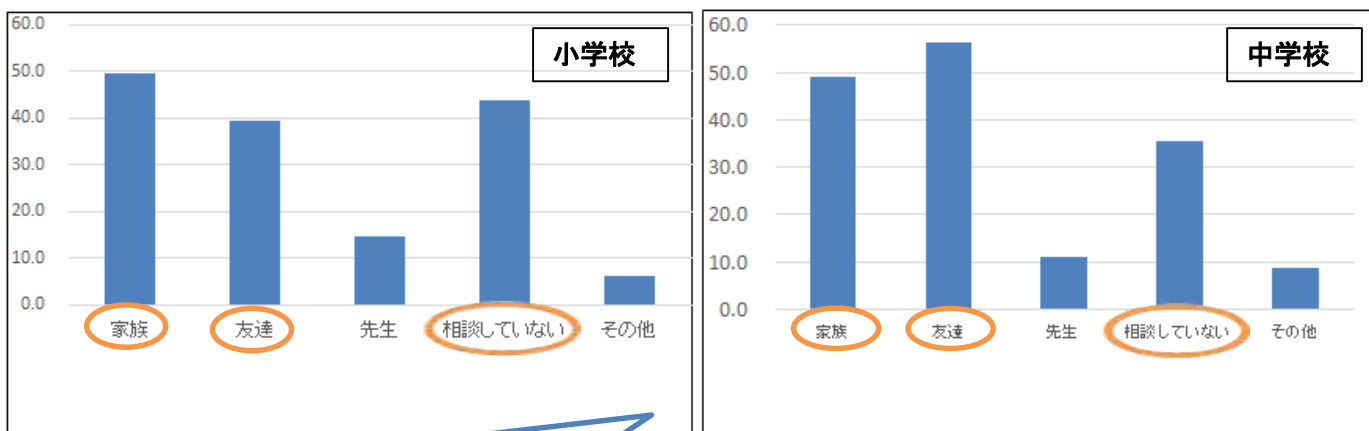
小中学校ともに増加している。

④ インターネットやコミュニケーションサービスでの具体的な嫌な経験(%)【複数回答】



書き込みなどのやりとりで嫌な経験をした割合が高い。

⑤ 嫌なことがあったときに相談した相手(%)【複数回答】



- ・小学校では40%以上の児童、中学校では30%以上の生徒が嫌なことがあっても相談していない
- ・相談相手を小学校では「家族」、中学校では「友達」と回答した割合が高い。

(4) スマホ等の利用に関する家庭のルールについて

〈 概 要 〉

①家庭のルールがあるか

・スマホなどに関する家庭のルールが「ある」と回答した割合は、小学校63.8%、中学校61.4%で、小学校では、減少している。

②スマホに関するルールの内容

・小中学校とも、前回調査と同様に「使用する最終時間」の割合がもっとも高く、小学校では「使用合計時間」「使用する場面」、中学校では「利用料金や課金額」の割合も高い。

③ルールを守れているか

・スマホなどに関する家庭のルールを「守れている」と回答した割合は、小学校48.5%、中学校50.0%で、小中学校ともに前回調査より増加している。

① スマホなどの利用に関して家庭のルールが「ある」と回答した割合(%)

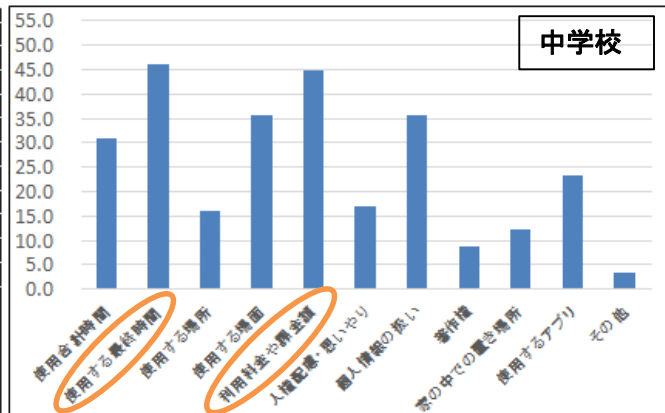
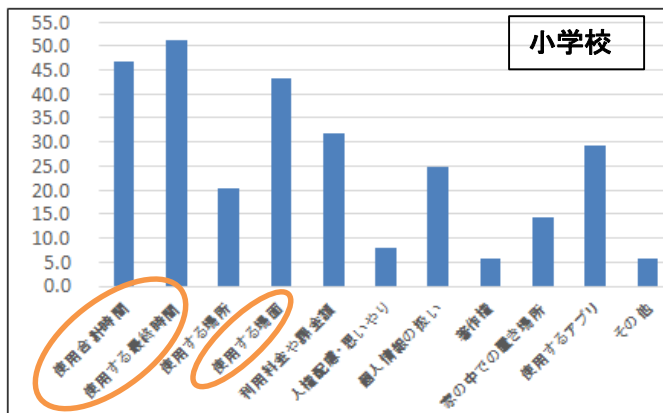
	小学校	中学校
R6	<u>63. 8</u>	<u>61. 4</u>
R5	65. 6	57. 5
R4	68. 0	62. 0

小学校は減少傾向であるが、中学校は増加に転じている。

※岡山県調査(令和6年度):小学校57. 8%、中学校49. 4%

※津山市の目標値(令和7年度)スマートフォン等の利用について時間・マナー等の家庭で決めたルールがある 目標:小学校66%以上、中学校61%以上

② スマホに関するルールの内容(%)【複数回答】



③ルールを守れている割合(%)※「どちらかというと守れている」を含まない

	小学校	中学校
R6	<u>48. 5</u>	<u>50. 0</u>
R5	47. 9	43. 6
R4	46. 6	46. 4

・小中学校ともに増加している。
・小中学校とも約半数が家庭のルールを守っている。

(5) スマホやネット等の危険性に関することについて

〈 概 要 〉

①スマホやネット等の危険性について学んだことがあるか

・スマホやネット等の危険性について学んだことが「ある」と回答した割合は、小学校76.5%、中学校87.5%であった。

②スマホやネット等の危険性について学んだ相手・方法

・「学校」から学んだという回答は、小学校82.5%、中学校92.4%となっている。
・「保護者」から学んだという回答は、小学校59.6%、中学校42.8%となっている。

③フィルタリング設定

・フィルタリングを設定している割合（ネットにつながらないを含む）は、小学校30.7%、中学校40.9%であった。

④保護者のスマホ等から使用時間やアプリの制限等（ペアレンタルコントロール設定）があるか

※ペアレンタルコントロールとは、子どもによるスマホ等の利用を、保護者が制限する機能のこと

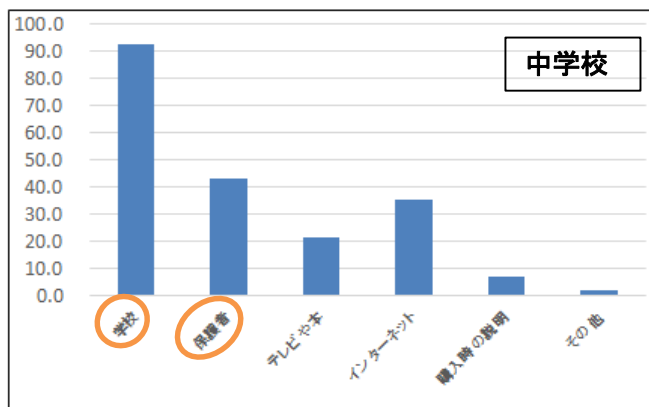
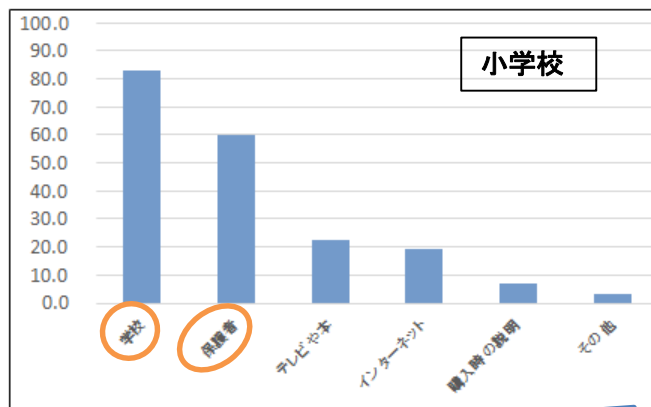
・保護者のスマホ等から使用時間やアプリの制限等がされている割合は、小学校31.7%、中学校31.0%であった。

① スマホやネット等の危険性について学んだことが「ある」と回答した割合(%)

	小学校	中学校
R6	<u>76.5</u>	<u>87.5</u>
R5	73.7	88.5
R4	77.0	86.6

小学校は増加しているが、中学校は減少している。

② スマホやネット等の危険性について学んだ相手・方法(%)【複数回答】



・小中学校ともに、「学校」でスマホやネット等の危険性について学んだ割合が高い。

③ フィルタリング機能を設定している(%)

	小学校	中学校
R6	<u>30.7</u>	<u>40.9</u>
R5	33.3	37.6
R4	30.0	37.0

小学校では減少しているが、
中学校では増加している。

※「ネットが使えない機種・設定」と回答した児童生徒を含む。

④ 保護者のスマホ等から使用時間やアプリの制限等をされている(ペレンタルコントロール設定)(%)

	小学校	中学校
R6	<u>31.7</u>	<u>31.0</u>
R5	25.9	36.9

小中学校ともに、約30%の保
護者がスマホ等を管理する機
能により、使用を制限している。

(6) 総合考察

- スマホ等の所持率は、増加し続けている。小学生は6割以上の児童、中学生に至っては9割近くの生徒が所持している。また、スマホ等の利用時間についても、2時間以上利用している児童が約4割、生徒が約7割いる。スマホ等の利用により、SNSを含む友達とのやりとり、ゲーム、音楽や動画の視聴等に多くの時間を費やしており、睡眠時間、学習時間、運動の時間の減少を自覚している児童生徒が多い。

→今後も継続的に、「スマホ等の利用に関する取組」を進めていく必要がある。

- インターネット等を利用することで悩みや負担が「ある」と回答した割合は、小学校において増加しており、インターネット等で嫌な経験が「ある」と回答した割合は、小中学校ともに増加傾向にある。嫌な経験の具体としては、小中学校ともに「書き込んだ内容が誤解された」がもっとも多く、SNS等を介したやりとりでのトラブルが多い。

→学校や家庭で、計画的に「情報活用能力(情報モラルを含む)の育成」を進めていく必要がある。

- スマホやネット等を介して嫌なことがあったときの相談相手として、小学校は「家族」、中学校は「友達」と回答している割合が高い。また、嫌なことがあっても相談しない児童が4割以上、生徒が3割以上いる。

→学校での「sosの出し方に関する教育(周囲からの相談などの受け止め方に関する教育を含む)」の一層の推進や、相談窓口の周知を行っていく必要性がある。

- 家庭のルールが「ある」と回答した割合は、小学校63.8%、中学校61.4%で、小学校では減少したものの、依然として県調査(小:57.8%中:49.4%)を上回っており、中学校では津山市の目標値を上回った。またルールの内容としては、前回調査と同様に「使用する最終時間」が、小中学校ともにもっとも多く、ルールを守れている割合は、小中学校とも約半数いる。また、フィルタリング機能等の設定により利用に制限があると回答した割合は、30%程度である。

→家庭でのルール作りと振り返りやフィルタリング機能等の設定に関する啓発を行う必要がある。

※津山市の目標値(令和7年度)スマートフォン等の利用について時間・マナー等の家庭で決めたルールがある
目標:小学校66%以上、中学校61%以上

(7) 今後の学校としての取組

【短期的な対策】

- 自校の児童生徒のスマホ等の使用に関する実態を継続的に把握、発信することで、児童生徒や保護者への啓発とする。
- 「チャレンジ・ハッピーデー」(6月・11月)を各校で実施し、スマホやネットの適切な利用や、家庭でのルール作りについて親子で考える機会とする。
- 学校運営協議会やPTAの会合等でスマホに関する利用実態の情報提供を行い、「家庭のルール作り」について熟議することで、啓発活動の促進を図る。

【中長期的な対策】

- 情報モラル教育教材『SNSノートおおさか』や、一人一台端末に導入されている『事例で学ぶNetモラル』を学校や家庭で継続的に活用し、児童生徒の情報モラル・リテラシーの強化を図る。
- 関係機関と連携した非行防止教室等を積極的に活用し、情報活用能力(情報モラルを含む)を育成する教育活動を行う。
- 児童会や生徒会等の活動を通じて、児童生徒が主体的に課題意識をもてるような取組をすすめる。
- 特別活動や保健体育など、各教科等において計画的・継続的に「sosの出し方に関する教育(周囲からの相談などの受け止め方に関する教育含む)」を実施する。(※昨年度の実施状況調査では、ほとんどの学校で実施されているものの、内容については格差が見られた。)